

Y24b ぐんま天文台の10年の活動

田口光、古在由秀、倉田巧、橋本修、浜根寿彦、長谷川隆、新井寿、倉林勉、高橋英則、衣笠健三、大林均、 本田敏志 (ぐんま天文台)

群馬県立ぐんま天文台は、1999年に開館して以来10年を迎えることができた。ぐんま天文台は群馬県が1993年10月に人口が200万人に達したこと、1994年に向井千秋氏(群馬県出身)が宇宙に飛び立ったことなどを記念して、後世に残る有形の文化資産として造られた。この天文台は、21世紀を担う子どもたちが第一線の研究者との交流や本物の天体に触れることなどを通して、「本物」の実体験を提供することを基本理念に建設が進められ、運営について、5つの基本方針が掲げられ、今日まで活動されている。「本物の体験」望遠鏡で本物の星や宇宙を見ることだけでなく、研究者との交流や最前線の研究現場に接することなど、幅広くとらえる。「開かれた利用」施設だけでなく、天文台で取得したデータや情報などを、子供たちから天文愛好家、研究者まで広く公開する。「学校や生涯学習との連携」学校教育における自然体験学習の場を提供するとともに、知識や年代に応じた幅広い生涯学習機会を提供すること。「観測研究」生き生きとした教育普及活動を進めるには、天文台職員の本格的な研究活動が不可欠である。天文学の発展に貢献できるような水準の研究を進め、広く研究者の養成にも努める。「国際協力」諸外国からの研究者の受け入れや養成、さらに国際共同観測等の国際的な協力活動を行う。発表では、ぐんま天文台10年の活動や今年度から開始された「観測体験時間」や「天文授業サポート」等、新たな事業についても報告する。